

# 2023年4-6月期GDP速報（1次速報値）

## ～ ポイント解説 ～

令和5年8月15日

内閣府経済社会総合研究所

国民経済計算部

### [ 1 ] GDP成長率

2023年4-6月期のGDP成長率（季節調整済前期比）は、1次速報値において、実質は1.5%（年率6.0%）と3四半期連続のプラス成長となった。名目は2.9%（年率12.0%）となった。

### [ 2 ] GDPの内外需別の寄与度

実質GDP成長率（季節調整済前期比）に対する内外需別の寄与度を見ると、国内需要（内需）は0.3%と2四半期ぶりのマイナス寄与となった。財貨・サービスの純輸出（外需）は1.8%と2四半期ぶりのプラス寄与となった。

### [ 3 ] 需要項目別の動向<sup>1</sup>

#### （1）民間需要の動向

民間最終消費支出については、実質0.5%と3四半期ぶりの減少となった。外食や宿泊等が増加に寄与した一方で、飲食料品や白物家電等が減少に寄与したとみられる。

民間住宅については、実質1.9%増と3四半期連続の増加となった。

民間企業設備については、実質0.0%増となった。

民間在庫変動のGDP寄与度については、実質0.2%となった。実質の在庫残高が2023年1-3月期から4-6月期にかけて増加幅を縮小したことから（2023年1-3月期2.5兆円、4-6月期1.7兆円）、その変化分（0.8兆円）がGDP成長率に対してマイナスに寄与した<sup>2</sup>。

#### （2）公的需要の動向

政府最終消費支出については、実質0.1%増と3四半期連続の増加となった。

<sup>1</sup> 季節調整済前期比について解説。

<sup>2</sup> 実額はいずれも実質季節調整値（年率表示）。

公的固定資本形成については、実質 1.2%増と 5 四半期連続の増加となった。  
公的在庫変動の GDP 寄与度は、実質 0.0%となった。

### ( 3 ) 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出については、実質 3.2%増と 2 四半期ぶりの増加となった。自動車や旅行( 訪日外国人の国内消費 )等が増加に寄与したとみられる。

財貨・サービスの輸入については、実質 4.3%と 3 四半期連続の減少となった。鉱物性燃料、医薬品、携帯電話機等が減少に寄与したとみられる。

### [ 4 ] デフレーターの動向

GDP デフレーターについては、季節調整済前期比で 1.4%となった。国内需要デフレーターは前期比 0.5%となった。外需デフレーターはプラスに寄与した。

GDP デフレーターの前年同期比については、3.4%となった。

[ 参考 ]

[ 1 ] G N I ( 国民総所得 ) の動向

2023 年 4-6 月期の実質 G N I 成長率は、季節調整済前期比で 2.6% ( 年率 10.7% ) と 3 四半期連続のプラスとなった<sup>3</sup>。海外からの実質純所得 ( 寄与度 0.4% )、交易利得 ( 寄与度 0.8% ) とともにプラス寄与となった。名目 G N I 成長率については、季節調整済前期比で 3.1% ( 年率 13.0% ) と 3 四半期連続のプラスとなった<sup>4</sup>。

[ 2 ] 雇用者報酬の動向

2023 年 4-6 月期の名目雇用者報酬は、前年同期比で 2.6% 増、季節調整済前期比で 1.1% 増となった。前年同期比については、一人当たり賃金、雇用者数がともに増加に寄与した。実質雇用者報酬については、前年同期比で 0.9%、季節調整済前期比で 0.6% となった<sup>5</sup>。

( 以上 )

---

<sup>3</sup> 実質 G N I = 実質 G D P + 海外からの実質純所得 + 交易利得

<sup>4</sup> 名目 G N I = 名目 G D P + 海外からの純所得

<sup>5</sup> 実質雇用者報酬は名目雇用者報酬を家計最終消費支出 ( 除く持ち家の帰属家賃及び FISIM ) デフレーターで除して算出した参考値。